

チヴィタヴェッキア市と宮城県石巻市の姉妹都市交流40周年記念式典

2011年10月
在イタリア日本国大使館

2011年10月11日、ローマから車で1時間ほどのティレニア海に面したチヴィタヴェッキア市にて、同市と宮城県石巻市との姉妹都市交流40周年記念式典が執り行われました。大震災の影響で残念ながら石巻市関係者の参加はなりませんでしたが、代わりに式典には河野駐イタリア大使が出席しました。式典に先立って行われたモスケリーニ・チヴィタヴェッキア市長と河野大使の会談、東日本大震災追悼ミサ、そして姉妹都市交流40周年記念式典の概要をご紹介します。

1. モスケリーニ市長と河野大使の会談

市長からは「姉妹都市である石巻市の惨状を目にして我々も悲痛な気持ちであったが、震災後の日本人の勇気ある態度には我々も驚かされました。」との言葉を頂きました。これに対し、河野大使からは、チヴィタヴェッキア市から受けた支援に感謝していること、現在はごく一部の地域を除き放射能の危険もなく、復興は着実に進んでいること、なんら心配せず日本を再び訪れてほしいこと等を説明しました。

2. 東日本大震災追悼ミサ

(1)会談後、市長と大使は日本聖殉教者教会に移り、チヴィタヴェッキア市関係者、伊日財団関係者、一般市民等とともに東日本大震災の被災者を追悼するミサに出席しました。同市は、ローマを目指して日本を出帆した支倉常長を長とする遣欧使節団が1615年に上陸した地です。このこともあって、同市には、1597年に長崎で殉教した26名のキリスト教徒を祀るために1864年に同教会が献堂されたのです。



【東日本大震災追悼ミサの様子】

(2)冒頭神父から、本ミサは、震災後の日本の復興を祈念し、津波の犠牲者に捧げるものである旨の説明がありました。

(3)その後、チヴィタヴェッキア市民有志から、日本語にて、地震で亡くなった人のため、家や家族を失った人のため、石巻市の今後の希望のため、日本の友愛のため、祈りを捧げる旨のメッセージが伝えられました。

(4)最後に市長から、「同市と石巻市は地理的には遠く離れているが、精神的には常

に近くにあります。その証拠に、チヴィタヴェッキア市では震災直後から特に若者を中心として自発的に石巻市支援運動が起こったのです。」とのメッセージが述べられました。

3. チヴィタヴェッキア市・石巻市姉妹都市交流40周年記念式典

(1) 東日本大震災追悼ミサに続いて、市長をはじめとする関係者は市の中心部にある支倉常長像前広場に移動し、姉妹都市交流40周年記念式典が執り行われました。



【日の丸を手に式典に参加する子どもたち】

(2) 日伊両国の国歌演奏に続いて、市長から、「イタリアで最も早くチヴィタヴェッキア市の若者が日本の被災者支援に乗り出しました。日本語を解する同市の

若者たちが今後の姉妹都市交流の架け橋となっていきます。その際、姉妹都市関係を礎に文化関係、人的交流、更には経済交流も更に活発化させていきたいと考えています。」とのメッセージが述べられました。

(3) 続いて河野大使から、チヴィタヴェッキア市から頂いた石巻市への支援・連帯に対する感謝の意を表明するとともに、「本日は石巻市の代表者の参加がないことは残念ですが、今次追悼ミサや姉妹都市交流記念式典のような、市民による精神的な連



【式典が行われた支倉常長像前広場】

帯感の表明こそが、石巻市の未来への希望を育むことにつながります。3.11東日本大震災の惨劇はありましたが、是非自分達のことを忘れないでほしい、というのが石巻市民の切なる気持ちです。支倉常長の石巻港出帆から400周年を迎える2013年に、石巻市の関係者とともに節目の年を祝うことで石巻市の人々に更なる希望を与えることができます。」というメッセージを述べました。